

2024年度事業報告について

総括

2024年度、「絆の会5か年中期事業計画」は4年目を迎え、次の5か年を見据え、課題を抽出しながら事業に取り組んできた。

就労移行支援事業所「悠友ハウス就労支援センター」廃止後の就職希望利用者への対応としては、「会独自の就労支援チーム」が中心となり、アセスメントの実施、職場見学や就職説明会への参加を促す等、就職に向けた意欲向上につなげてきた。「びーんず・あんだんて」の出張所となった「旧クレール篠ノ井」の活用については、特にあんだんてが手狭であるという課題解決の一つとして、資材保管場所として使用する他、当会B型事業所の自主製品を中心とした販売会（マルシェ）を3回開催した。近隣の事業所や地域住民の方の利用もあることから、今後も定期開催を予定している。グループホームは、一人暮らしを希望する利用者に対する支援に力を入れるため、「移行支援」と「日中支援」という役割を分担した職員体制を整備して支援を行ってきた。特に2025年2月の賃貸契約終了を機に閉鎖をしたアパート形式のグループホーム「セルフイー平林」の利用者について、2名の単身でのアパート生活開始を支援した。絆の会グループホームの今後の方向性を探るため、市内の関係機関（病院・相談支援事業所等）を対象に「ニーズ調査」を行った。結果はさらに精査し今後のあり方につなげていく。自然災害発生時における業務継続計画（BCP）については、グループホームを中心に、休日夜間時に特化した合同避難訓練の実施や備蓄品の確認と見直しを行った。

「絆の会キャリアパス（所長部門）」については、所長会の場を活用し話し合いを続け完成させた。主任会では前年度作成した「絆の会キャリアパス（主任部門）」を用いて日々の取組の振り返りを行う他、新任職員研修の講義を受け持つことを目標に、テーマを設けてテキスト作成に取組み、完成後は所長を聴衆対象とした発表会を行った。前年に引き続き実施した中堅職員対象の研修では、支援の本質を学びグループワークによってより実際の支援に活かせるよう内容を工夫し行った。メンタルヘルス研修については、全職員が受講できるよう、開催日時を工夫し開催した。職員間のコミュニケーションや支援力向上のために行う短時間の利用者支援ミーティングは、全事業所で定期的に継続して行い、個々の職員へのサポート体制として、職歴の浅い新任職員2名を対象にOJTを実施した。こうした活動をとおして近年の大きな課題の一つである職場定着や人材育成に取り組んできたが、離職者もあり、引き続き働きやすい職場環境づくりや次世代の育成が必要である。

コロナ禍による密を避けるために開催見送りが続いていた法人本部での「絆フェスタ」を、今年度5年ぶりに開催した。被災地支援や地域との交流、4本柱（当事者・家族・ボランティア・職員）それぞれの活躍の場としてのステージ発表等、盛りだくさんの内容で、多くの参加があった。また、今までは5年毎に行っていた「感謝状贈呈式」だが、年に一度は表彰者を選定し行うこととし、2024年度は5名の方に贈呈した。「絆の会法人化20周年記念事業（2023年度開催）」で掲げた「語り合い学びあい 未来へ伝えよう」というテーマを継続していくため取組み始めた「絆の会記録集」の作成は次年度も引き続き行う。

人材育成や運営基盤の安定化といった点はここ数年の継続課題ではあるが、次の「絆の会中期事業計画」策定につながるよう、一つずつ実績を積み上げ始めた1年であった。

I - 1 法人本部事業

1 会議等の開催状況

(1) 理事会、評議員会について（理事会3回、評議員会1回開催）

会議名	日付	審議内容	出席者
第1回 理事会	2024年 6月6日	報告事項 ・ 理事長及び業務執行理事の職務遂行状況について ・ グループホーム「セルフイー平林」の閉鎖について 審議事項 ・ 2023年度事業報告（案）について ・ 2023年度決算報告（案）について ・ 社会福祉法人絆の会定款の一部改正について ・ 諸規定の一部改正について ・ 指定就労継続支援B型 びーんず運営規程の一部改定について ・ 就労支援事業における設備等整備積立金の積み立てについて ・ 定時評議員会の招集について	理事8名中8名出席 監事2名中1名出席
定時 評議員会	6月21日	報告事項 ・ 2023年度事業報告について ・ 収益事業「絆の会松代温泉駐車場事業」の廃止について 審議事項 ・ 2023年度決算報告（案）について ・ 社会福祉法人絆の会定款の一部改正について	評議員9名中8名出席 理事4名出席 監事2名出席
第2回 理事会	11月14日	報告事項 ・ 理事長及び業務執行理事の職務遂行状況について ・ 2024年度中間事業報告について 審議事項 ・ 規則及び規定の一部改正について ・ 2024年度資金収支補正予算（案）について	理事8名中7名出席 監事2名中2名出席
第3回 理事会	3月21日	報告事項 ・ 理事長及び業務執行理事の職務遂行状況について ・ 旧皆神ハウス「相談室」の処分について ・ グループホーム「セルフイー平林」閉鎖後の入居者の状況について 審議事項 ・ 規則及び規程の一部改正について ・ 2025年度事業計画（案）について ・ 2025年度資金収支当初予算（案）について ・ 施設長等の選任及び解任（案）について	理事8名中6名出席 監事2名中2名出席

(2) 監事による内部監査

5月24日 監事による2023年度事業及び決算監査

(3) 事業運営のための諸会議

運営会議（理事長、副理事長、常務理事、各統括管理者、相談役）

経営会議（三役、事務長、所長、主任、事務局職員）

責任者会（理事長、統括施設長、各統括管理者）

所長会、所長・主任会、主任会、職員全体会

(4) 苦情解決関係等

7月12日 苦情解決担当者等会議

（苦情解決第三者委員、苦情解決責任者、苦情受付担当者、理事長、副理事長）

虐待防止委員会

（虐待防止委員長、副委員長、委員（苦情解決第三者委員、各所長、事務長））

11月15日 苦情関係者交流会（於：びーんず・あんだんて）

（苦情解決第三者委員、苦情解決責任者）

2 各種委員会・検討会等

絆の会サポート委員会、職員処遇改善委員会、ホームページ管理運営委員会

ボランティア委員会、災害・感染症等対策委員会、絆フェスタ実行委員会、

ハートレター絆編集委員会、当事者会（ひまわりの会）支援、絆の会家族会支援

3 寄附金収入について

支援金 2,517,400円（268件） ※前年度 2,659,321円（303件）

4 事業一覧

(1) 社会福祉事業

- | | |
|------------------------------|---------------|
| ① 一体型事業（就労定着支援事業、就労継続支援B型事業） | 1か所 |
| ② 就労継続支援B型事業 | 2か所（3事業所） |
| ③ 共同生活援助事業 | 1か所（3グループホーム） |
| ④ 短期入所事業 | 1か所 |
| ⑤ 自立生活援助事業 | 1か所 |
| ⑥ 地域活動支援センター | 1か所 |
| ⑦ 相談支援事業（指定特定相談、指定一般相談） | 1か所 |

5 職員の採用・退職等の状況

(1) 採用（8名） 正職員2名、嘱託職員6名

(2) 退職（8名） 正職員2名、嘱託職員6名

6 職員の有資格者状況（重複あり）

精神保健福祉士 12名

社会福祉士 6名

介護福祉士 5名

作業療法士 1名

看護師 2名

管理栄養士 1名

調理師 2名

7 職員の資質向上のための研修

(1) 内部研修・当法人主催研修

- ・ 職層に応じた研修 5回
 - 新任職員研修 4回
 - 中堅職員研修 1回
 - ・ ハラスメント及びメンタルヘルス研修 2回
 - ・ 全体研修 2回
 - ・ 利用者支援のためのケース検討会 全8回
 - 内 就労部門と地域生活部門 各2回
- (参加者：精神科医師、精神保健福祉士、職員等)

(2) 外部研修

- ・ 資格取得のための研修
 - サービス管理責任者研修（基礎研修講義部分） 2名
 - サービス管理責任者研修（実践研修） 4名
 - サービス管理責任者研修（更新研修） 2名
 - 相談支援従事者現任研修 3名
 - 甲種防火管理新規講習 6名
 - 安全運転管理者等法定講習会 1名
 - 食品衛生責任者実務講習会 1名
- ・ 福祉職員生涯研修・人材育成他研修（長野県社会福祉協議会主催）
 - 新任職員課程 2名
 - 中堅職員課程 3名
 - 新任管理者課程 1名
 - 新人育成担当者研修 4名
 - OJTリーダー養成研修 1名
 - キャリアパス制度構築基礎研修 1名
- ・ その他各種研修参加状況

（きょうされん主催）第47次国会請願行動、第47回きょうされん全国大会inしが、ベルギーから学ぶ 共同創造の精神医療改革

障がい福祉サービス従事者新人研修、意思決定支援を支えるセミナー、障害者虐待防止・権利擁護研修会、第9回福祉新聞フォーラム、第14回清水基金国内研修等

8 研修会等への講師の派遣（計3回）

日付	内容	主催	場所	氏名
8月26日	精神障害者の退院支援・地域生活支援連絡会 体験発表～地域移行支援事業の実際～	長野市保健所	長野市保健所	横山真紀子
11月13日	障害者職業生活相談員資格認定講習	高齢・障害・求職者雇用支援機構	ホテル信濃路	荒谷麻美子

日付	内容	主催	場所	氏名
2月22日	東海・甲信越(中部)ブロックと もに学び、生きる共生社会コン ファレンス	文部科学省総合 教育政策局	JA長野県ビル	坂口和美

9 実習・視察研修の受け入れ

(1) 実習

- ・ 日本福祉大学
- ・ 長野大学
- ・ 佐久大学
- ・ 長野看護専門学校
- ・ 清泉大学
- ・ 長野保健医療大学
- ・ 長野養護学校
- ・ 稲荷山養護学校
- ・ 信州大学附属特別支援学校

(2) 視察研修

- ・ 信州大学附属特別支援学校
- ・ 信濃町社会福祉協議会

10 当事者・家族・ボランティア活動への支援

(1) 当事者活動への支援

① 当事者会（ひまわりの会）の支援

事業所の枠をこえたメンバー同士の交流、情報交換や学びあいの場を提供すること目的に活動。前年度に引き続き、「会員誰でも参加し気軽におしゃべりができる『ひまトーク』」と、『ひま会新聞』は、継続して開催、発行した。絆フェスタでは、『名刺交換会』と『ステージ企画：青年の主張』を通して、交流の場をつくった。

<活動内容>

役員会 月1回（計12回）
ひま会新聞の発行 4回
ひまトーク 3回

第10回定期総会（6月）、きょうされん第47回全国大会in滋賀への参加（11月）

② スポーツ活動（ソフトバレーボール）

9月～ボランティア1名参加

<会議状況>

スタッフ会議 月1回実施
メンバーミーティング 年1回実施

<活動状況>

毎週水曜日 13:30～16:00 長野市中部勤労青少年ホームにて活動
休日練習 9月21日、3月15日

<大会結果>

- ・第24回全国障害者スポーツ大会 精神障害者ソフトバレーボール競技 北信越・東海地区ブロック予選会
2024年6月8、9日 石川県小松末広体育館
成績：準優勝
- ・令和6年度北信地区スポーツ交流会（ソフトバレーボール大会）
2024年6月28日 長野運動公園総合体育館
成績：優勝（県大会出場決定）
- ・令和6年度長野県障がい者スポーツ大会（ソフトバレーボール大会）
2024年9月8日 開会式・競技会場：朝日村農業者トレーニングセンター体育館
成績：優勝（北信越・東海地区ブロック予選会出場決定）

③ 絆の会合唱団活動報告

- ・練習日：毎月第2、第4火曜日
- ・練習回数：23回
- ・練習曲：「風とたんぽぽ」「未来へ」「手のひらを太陽に」「夏の思い出」他
- ・演奏・出演
 - 6月11日 絆の会家族会総会
 - 8月6日 ミニコンサート ～夏のリフレッシュ広場～
 - 9月28日 ふれあい音楽祭
 - 11月9日 絆フェスタ
 - 11月26日 みんなうたう会
 - 3月25日 20周年記念コンサート ～ぼくの歌きいてよ～

(2) 家族会への支援（事業報告は別紙）

- ① 会合や研修会の出欠席の取りまとめと名簿作成
- ② 家族会費の徴収
- ③ 役員会（月1回）への出席
- ④ 研修会の情報提供（お誘い）

※運営については相談や調整役に徹し、ご家族の主体的な活動を大事にしている。

(3) ボランティアの活動状況（ボランティア登録人数 75名 実延人数 87名）

- ① 各事業所での活動（各事業報告に記載）
- ② ボランティア委員会の活動（絆カフェ運営委員会を含む）
委員会：6月、9月、10月、11月、3月 全5回
- ③ 絆フェスタへの協力：コーヒー販売
- ④ ボランティア交流会：12月19日（各事業所のボランティア活動の紹介と演奏会）
- ⑤ 毎月第3木曜日 絆カフェの開催
- ⑥ 精神保健福祉ボランティア養成講座への協力・ボランティア体験発表

11 広報・普及・啓発活動

(1) 精神保健福祉ボランティア養成講座

日 程：2025年1月30日、2月6日、2月13日、2月27日

場 所：法人本部多目的スペース

参加者：21名（部分参加者含む） 延人数：98名

内 容：精神保健福祉の制度や、病気の理解、関わり方、について学ぶ。

障害当事者、家族、ボランティア、職員の体験発表を聞く。

講 師：川中島Fメンタルクリニック 福家知則氏、当法人職員

ボランティア体験実習：2月17日～26日の間の2日間、希望日に合わせて
絆の会各事業所で行った。

2月27日、修了証書を12名に授与（うち3名がボランティア活動を希望）

(2) 第13回絆フェスタ

2024年11月9日 10：00～15：30

場所：法人本部 来場者数：200名余

<内容>

- ・感謝状贈呈式 個人への表彰 5名
- ・ステージ企画・発表 4本柱（当事者・家族・ボランティア・職員）それぞれの発表
- ・販売 各事業所自主製品の販売、喫茶りんどろ「コーヒー販売」、野菜販売、外部協力（芹田小学校芹の子学級、ベーカリーCoCo）
- ・あそびの広場（ワークショップ） ボードゲーム、駄菓子、キーホルダー製作等
- ・能登を応援しよう 能登地方の物品販売、長野県共同募金会、各種売上の一部寄付

(3) 「ハートレター絆」の発行（ボランティア2名）

年4回（第124～127号）各500部発行

若里地区内（南市、北市、若里中央、上千田、荒木、若里西町）の回覧

(4) ホームページによる発信（ボランティア2名）

日常の様子や研修情報など、ブログ・インフォメーション等随時更新

- ・「お問い合わせフォーム」の作成
- ・「文化・スポーツ活動」ページの更新
- ・ブログをSSL対応に向け移行準備（2025年4月開始）
- ・各事業所リーフレット内容の見直し

12 障害者の地域生活向上に向けた取組

- (1) 長野市障害ふくしネットへの参加
- (2) きょうされん等他団体との連携、協同
- (3) 障害者福祉推進のための活動への参加（署名活動や国会議員への陳情）

13 苦情内容及び結果

申出人	件数	内容	結果
近隣住民	1	地域活動支援センター内での大きな話し声や歌声がうるさい。	地域活動支援センター所長より申出人宅へ謝罪文を投函した。
利用者	1	地域活動支援センターでセクハラ行為や不快な発言を繰り返す利用者への職員の対応を徹底してほしい。ハラスメント行為全般を断罪してほしい。	苦情解決責任者と本人、地域活動支援センター所長で話し合いの場を持ち、職員間での対応の徹底を伝える。話し合いの過程で申出人自身から地域活動支援センターでの過ごし方に対する解決策を得る。

Ⅱ－1 2024年度 一体型事業所（就労定着支援・就労継続支援B型）事業報告

1 悠友ハウス（就労定着支援） 長野市若里三丁目14番23号

(1) 総括（重点目標及び報告、課題）

① 雇用先の主体的なかかわりのサポート

- ・雇用先担当者と紹介シートを使い、利用者の障害特性や関わり方を共有し、雇用先が積極的に利用者に関われるよう取り組んだ。
- ・雇用先の困りごとに対して訪問頻度を増やし、雇用先、利用者双方と話し合う場を設けた。

【課題】利用者の状況に応じた支援のタイミングと頻度

② 関係機関との情報共有

- ・サービス終了後の支援機関に利用者と訪問した他、支援機関担当者と雇用先に訪問し、顔合わせの場面を作ったことで、スムーズに支援の引継ぎを行うことができた。
- ・他法人の利用者受け入れのため、一部関係機関へ宣伝した。

【課題】他法人の利用者受け入れのため関係機関への宣伝

③ 就労支援チームとの連携

- ・作業能力評価を法人内B型事業所3名の利用者を実施。強みや課題の共有、どんな支援が考えられるか検討するきっかけとなった。
- ・月1回就労支援チーム会議に参加。就職希望者に関する情報共有、企業見学の実施。

【課題】作業能力評価用ワークサンプルの充実と方法の確立、企業見学、実習先の確保

延べ利用者数：108名（前年度 123名）

(2) 利用者状況（就業開始順）

人数 8名（男性4名、女性4名）

勤続年数 1年以上2年未満：1名、2年以上3年未満：4名、3年以上：3名

就職先 株式会社ツルヤ青木島店・須坂西店、長野ベリーファーム株式会社
カイシンエレクトロニクス株式会社豊野工場、トランコム株式会社、信学会
直富商事、ホテル国際21

2 悠友ハウス（就労継続支援B型） 定員25名 長野市若里三丁目14番23号

(1) 総括（重点目標及び報告、課題）

① 就職希望者に対する支援の確立

- ・月1回就労支援チーム会議に参加。支援方針・方法について相談し、1名が就職した。
- ・印刷、企業先での作業（2か所）を就職希望者対象の作業種目として位置づけ、利用者とは共有（5名が従事）。就職に向けたモチベーション向上につながった。

【課題】個別支援の充実（アセスメントの実施、対処法を学ぶ場（作業）提供）

② 工賃向上と利用者増の取り組み

【工賃向上】

- ・一部作業で営業や丁寧な作業を心がけた結果、新規作業が増え（軽作業：1件、清掃：3件、販売：2か所、印刷：公共機関の受注増）工賃向上につながった（平均月額工賃前年

度比139%増)

【利用者増】

- ・当法人グループホームへ送迎エリアを拡大し、試験的に実施。2025年度も継続する。
- ・休日開所のお楽しみ企画を6回実施。通所回数の少ない利用者が通所するきっかけになった。
- ・事業所の活動周知を目的に作業体験会を予定していたが、検討が不十分で実施に至らなかった。
- ・新規利用者8名(見学者12名)。

【課題】

- ・工賃向上 出張販売の販路開拓、所内作業の充実。印刷事業の今後の方向性を検討。
- ・利用者増 事業所の活動周知(養護学校など)、送迎ルート拡大

③ 利用者の主体性を大切にした活動

- ・メンバー会主催の行事を4回開催。幹事を中心にアンケートや話し合いを重ねた。「次は自分が幹事をやる」という前向きな声が聞かれるようになった。
- ・ボランティアとの活動では太極拳を月1回実施。参加者が増え、良い交流の場となっている。

【課題】 成功体験の積み重ねができる機会の提供、出席の少ない利用者の活動の場づくり

④ 職員の質の向上

- ・支援ミーティングを月1回程度実施。支援方法を検討し、実践するきっかけとなっている。
- ・外部研修に参加し、支援力向上に努めた。

【課題】 職員同士が気軽に相談し合える環境づくり。

延べ利用者数：5,796名(前年度5,378名)

(2) 作業種目・売上・工賃(単価：円、賞与を含む)

作業種別	時給	売上額		工賃平均月額	
		2023年度	2024年度	2023年度	2024年度
軽作業	110円	1,104,160	1,052,622	2,355	2,212
アウトワーク	550円	955,111	1,361,133	8,382	16,267
清掃	650円	1,040,766	1,161,436	7,199	6,258
販売	200円	5,799,745	5,940,377	4,375	2,649
印刷	150円	1,720,348	3,070,215	12,237	11,367
ポスティング	5円/枚	41,170	45,003	2,059	1,656
ワゴンカフェ	500円	67,166	409,332	6,200	17,199
法令印刷	200円	-	313,445	-	4,828
全体		10,728,466	13,353,563	7,177	10,002

(3) ボランティア支援状況 施設外就労の作業補助1名、太極拳4名

II - 2 2024年度 就労継続支援B型事業所 事業報告

1 信州そば工房きずな 定員20名 長野市柳原659-1

(1) 総括（重点目標及び報告、課題）

① 作業量増と工賃向上

- ・悠友ハウス販売部からの注文数の増加や官公庁などへの予約販売、地域の祭りの景品採用等で売り上げを伸ばすことはできたが、目標には至らず、一日をとおした安定した稼働時間の確保はできなかった。
- ・ふるさと納税返礼品のネット通販は、事業者登録はしたものの開始には至らなかった。また、原材料費高騰の影響もあり、コストの見直しや価格改定を一部行い、収益の確保に努めた。
- ・野菜の袋詰め作業が取引先の都合により7月で終了。以前行っていた援農作業を8月から再開した。また悠友ハウスのアウトワーク事業へ参加を開始し、作業と工賃を維持できた。

【課題】 一日を通した作業量の確保、作業受託先の集約

② 利用者数の増加

- ・送迎サービスでは、対象者が2名から4名に増え対象地域を拡大し、一部利用者の安定した通所につながった。
- ・新規利用者1名（見学者2名）。

【課題】 送迎サービスの周知と拡大

③ 環境の整備

- ・経年劣化が進んだ設備について、一部修繕を行うことができた。マニュアルの整備を一部行い、納品準備作業に取り組みやすくなった。

【課題】 製造機械の修繕と更新、マニュアルの整備

④ 職員の資質向上

- ・外部研修に参加し、資質向上に努めた
- ・支援ミーティングを毎月行うことで、課題を共有して取り組むことができた。また、利用者にアンケート調査を実施。一人ひとりの希望を知る機会になった。

【課題】 支援向上につながる研修への主体的な参加

延べ利用者数：2,972名（前年度 2,728名）

(2) 作業種目・売上・工賃（単価：円、賞与を含む）

作業種別	時給	売上額		工賃平均月額	
		2023年度	2024年度	2023年度	2024年度
製造販売	500～600	12,233,666	14,004,284	25,373	31,801
援農	250～550	241,352	307,134	8,005	8,080
その他	150～350	97,680	112,250	2,188	2,417
全体		12,572,698	14,423,668	32,498	35,006

(3) ボランティア支援状況 昼食時の交流2名、援農1名、レクリエーション1名

2 ビーンズ（主：びんず） 定員10名 長野市篠ノ井御幣川1233-1

(1) 総括（重点目標及び報告、課題）

① 利用者の活躍の場づくり

- ・各作業で作業工程マニュアルを作成。完成度の均一化につながった。
- ・3か月に一度ランチ会を開催。利用者がチラシ作成やおやつ作りを担当し、主体的に取り組む場となった。
- ・休日開所のお楽しみ企画（5回）やマルシェ（3回）実施。利用者同士の交流の場となった。
- ・家族会総会で体験発表（1名）。第三者委員との交流会では一人ひとり発言する機会となった。

【課題】 利用者の希望把握とそれを活かせる役割の提案

② 工賃アップに向けた取り組み

- ・季節のイベント販売は新商品（9品）を開発し、販売先にPRした。
- ・軽作業は取引先企業にこまめな営業を行った事で作業量が増えた。

【課題】 販路拡大、物価高による菓子製品の値上げ、商品のPR、ギフトの商品化、キャッシュレス決済、作業単価の価格交渉

③ 一般就労を希望する利用者への支援体制の強化

- ・月1回就労支援チームの会議に参加。支援方法について相談した。
- ・企業見学（3か所）、合同企業説明会の参加
- ・就職希望者3名に職業能力評価を実施。利用者のモチベーションの向上につながった。

【課題】 就労希望者へ計画に沿った支援の実施

④ 職員の資質向上

- ・支援ミーティングを継続して実施（月3回）。職員間で利用者の様子やその日あった出来事、感じたことを振り返り話し合う時間が増えた。

【課題】 支援ミーティングの継続、支援会議やモニタリングの共有

述べ利用者数：2,459人（前年度 2,157人）

(2) 作業種目・売上・工賃（単価：円、賞与を含む）

作業種別	時給	売上額		工賃平均月額	
		2023年度	2024年度	2023年度	2024年度
菓子製造 (販売も含む)	600・660 (300)	7,511,460	7,771,180	16,703	19,979
軽作業 (ノバ作業含む)	150	533,703	676,205	3,217	3,315
全体		8,045,163	8,447,385	10,138	10,965

(3) ボランティア支援状況 作業補助・交流（OGT）1名

3 ビーンズ（従：あんだんて） 定員10名 長野市篠ノ井布施高田832

(1) 総括（重点目標及び報告、課題）

① 利用者増

- ・ 見学や実習を積極的に受け入れ、3名が利用につながった
- ・ 新規利用者には本人だけでなく家族、関係者とも連絡を取り環境に慣れるよう努めた
- ・ 近所の弁当配達の役割を新たに設け、一部利用者の作業として定着した
- ・ 写真や文言を使った配布資料を予定していたが準備不足のため完成に至らなかった

【課題】 新規利用者の定着（特性に合わせた作業の切り出し、作業量の確保）

② 利用者の力が発揮される環境作り

- ・ 利用者の意見を取り入れながら作業マニュアルを作成。一部の利用者は自分で考えて動けるようになった他、利用者同士で実践を交えながら教えることができるようになった
- ・ 接客に携わっている利用者は慣れるにつれ、来店客ともコミュニケーションがとれるようになった

【課題】 物の置き場所等の見える化、接客マナーや調理についての学習会

③ 利用者が過ごしやすい環境の整備

- ・ 利用者が落ち着いて過ごせるように所内のレイアウトを変更した（更衣室・休憩室の分散）

【課題】 落ち着いて過ごせる環境づくり

④ 職員の資質の向上、連携強化

- ・ 月に一回のペースで支援ミーティングを継続し日々の振り返りを行った

【課題】 支援ミーティングと日々の支援の振り返りの継続

延べ利用者数：2,193人（前年度 2,074人）

(2) 作業種目・売上・工賃（単価：円、賞与を含む）

作業種別	時給	売上額		工賃平均月額	
		2023年度	2024年度	2023年度	2024年度
軽食・弁当 （販売）	450・480 (300)	9,613,616	10,158,988	17,181	19,605
施設外	400	1,236,225	1,100,230	15,624	12,466
ワゴンカフェ	500～550	417,145	424,362	9,709	8,214
全体		11,266,986	11,683,580	15,790	15,865

(3) ボランティア支援状況 調理1名、施設外（法令印刷）1名、野菜等提供2名

Ⅱ－3 2024年度 一体型事業所・就労継続支援B型事業所 その他事業報告

1 利用者の状況・構成 (名)

		悠友ハウス (B型)			悠友ハウス (就労定着)			信州そば工房きずな			びーんず		
		男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計
登録者		32	8	40	4	4	8	14	5	19	9	22	31
年齢層	10代	1	-	1	-	-	-	-	-	-	1	1	2
	20代	9	-	9	1	1	2	3	1	4	-	4	4
	30代	3	2	5	-	2	2	1	1	2	1	7	8
	40代	6	2	8	1	1	2	2	2	4	2	2	4
	50代	8	3	11	2	-	2	5	1	6	4	2	6
	60代	5	1	6	-	-	-	1	-	1	-	5	5
	70代	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1	1	2
平均年齢(歳)		42.6	48	45.3	44	34.2	39.1	48.6	42.6	47.1	47.2	42.6	43.9
手帳保持	精神保健福祉手帳	26	7	33	4	4	8	10	2	12	8	16	24
	その他(療育手帳等)	6	1	7	-	-	-	3	3	6	1	5	6
障害者年金受給者		29	7	36	3	4	7	10	5	15	7	15	22
生活保護受給者		3	1	4	1	-	1	2	-	2	-	3	3
生活の場	家族(両親)と同居	20	5	25	2	2	4	9	1	10	5	14	19
	家族(その他)と同居	-	-	-	-	-	-	1	1	2	2	1	3
	グループホーム	5	1	6	-	-	-	2	1	3	-	1	1
	一人暮らし	6	2	8	2	2	4	2	2	4	2	6	8
	入院中	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
入所者		7	1	8	-	-	-	1	-	1	1	4	5
退所者		5	1	6	1	-	1	-	-	-	1	4	5
退所先	就職	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	1
	他施設利用	4	-	4	-	-	-	-	-	-	1	2	3
	その他	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	1	1

2 会議の開催日数

B型会議：B移会議（年6回）、拡大会議（年6回）、事例検討会（年4回）、研修報告（年2回）

利用者増ワーキンググループ（年12回）、支援ミーティング（週1回～月1回）

スタッフ会：年12回

Ⅲ 2024年度 共同生活援助 事業報告

1 総括

2024年度は、グループホームから一人暮らしを希望する利用者に対する支援に力を入れるため、「移行支援」と「日中支援」という職員体制に整備し支援を行った。しかし、体調不良等による入院者が多く、支援のあり方や職員間での情報共有等に課題が残った。

2025年2月末をもって閉鎖となった「セルフイー平林」からアパートでの一人暮らしを始めた2名については、退居後も定期的に訪問し支援を継続している。

リアン松岡では12月に「地域連携推進会議」を開催。区長や地区の民生児童委員にも参加していただき、利用者との交流も図り、グループホームの様子を知ってもらう機会となった。

延べ利用日数：5,348日/6,205日（前年度 6,751日/8,030日）

2 各グループホームの利用者の状況（2025.3.31現在 ※セルフイー平林のみ2月現在）

		みらいコーポ稲葉			リアン松岡			セルフイー平林		
		男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計
利用者数		5	1	6	5	-	5	3	-	3
年齢層	50代	1	1	2	3	-	3	1	-	1
	60代	2	-	2	2	-	2	1	-	1
	70代	2	-	2	-	-	-	1	-	1
平均年齢(歳)		-	-	64.8	-	-	56.8	-	-	65.7
障害支援区分	区分1	-	-	-	1	-	1	-	-	-
	区分2	1	-	1	1	-	1	1	-	1
	区分3	1	1	2	3	-	3	2	-	2
	区分4	3	-	3	-	-	-	-	-	-
障害者年金受給者		5	1	6	5	-	5	3	-	3
生活保護受給者		2	-	2	-	-	-	-	-	-
日中活動状況	就労継続支援B型	1	-	1	4	-	4	-	-	-
	生活介護	1	-	1	(1)	-	(1)	-	-	-
	デイサービス	2	-	2	-	-	-	-	-	-
	デイケア	-	-	-	1(1)	-	1(1)	-	-	-
入居		2	1	3	-	-	-	-	-	-
退居		2	2	4	-	-	-	4	1	5
入居中の入院		2	-	2	2	-	2	-	-	-
退居先	一人暮らし	-	-	-	-	-	-	1	1	2
	実家	2	-	2	-	-	-	-	-	-
	他のGH	-	1	1	-	-	-	2	-	2
	高齢者施設	-	1	1	-	-	-	-	-	-
	入院	-	-	-	-	-	-	1	-	1
ボランティア		-	2	2	1	-	1	-	(1)	(1)

※（ ）は併用

IV 2024年度 短期入所事業所 事業報告

みらいコーポ 稲葉（1床）長野市稲葉

1 総括

2024年度は、定期的な利用を希望する利用者が多く、毎月満床に近い状態であった。定期的な利用者で満床になることも多いため、予約開始時期を2か月前に設定したことで、新規利用者も利用しやすくなった。

利用者の関係者会議に出席することで、利用目的の再確認、家族とも情報共有を行うことができた。家族、相談支援専門員とも連携を図りながら、利用者の目的に沿った支援につなぐことができた。

2 利用者の状況

	利用者数	新規利用者数	利用実人数	稼働率
2024年度	500名(41.6名/月)	3名	25名	136.9%
2023年度	450名(37.5名/月)	10名	27名	123.2%

V 2024年度 地域活動支援センター 事業報告

地域活動支援センターⅢ型S オレンジ若里 定員20名 長野市若里四丁目5-28

1 総括

若里地区に移転して一周年になる6月に記念事業を行った。地域に開放しているギャラリー展示をきっかけに長野県立大学、シニア大学の学生等の多彩な作品展示が行われた。その後もボードゲームや折り紙、モルック等で関わりができ、活動につながった。利用者のボランティア活動としてNHK歳末たすけあい街頭募金活動を継続して行った。相談支援は、電話相談、来所相談を中心にいき、障害福祉サービスを希望する利用者には情報提供を行う他、長野市南部及び北部障害者相談支援センターや相談支援専門員等と連携し、次につながる支援を行った。また、職員の支援向上のため定期的な支援ミーティングを行った。

2 利用者の状況

(1) 年齢

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	その他	合計
合計	1	10	23	42	33	19	7	6	141

(2) 保健福祉

精神障害者保健福祉手帳	療育手帳	身体障害者手帳
120	11	3

(3) 生活の状況

家族と同居	グループホーム	一人暮らし	入院中
94	11	35	1

(4) 在宅地域・活動場所、就労状況

長野市	千曲市	上田市	中野市	坂城町	飯綱町	県外	一般就労	A型・B型・移行
124	8	2	1	2	3	1	35	33

3 利用実績(延べ数)

利用者数	5,855人	家族来所者	216名
来所相談	5,387件	見学者	44名
電話相談	2,544件	ボランティア参加	328名

4 事業内容

(1) 創作的活動及び講座等プログラム活動

- ・手しごとカフェ（8回）
- ・コラージュ（12回）
- ・食事に関するプログラム 新さんの料理教室・ランチ会等（32回）
- ・音読会（11回）
- ・ギターを弾いてみよう・季節の歌を楽しむ会（6回）
- ・麻雀・将棋（63回）

(2) 野外活動

- ・ お花見（若里公園） 4月10日
- ・ 芸術鑑賞（水野美術館・県立美術館） 9月3日、10日
- ・ バーベキュー（川中島古戦場史跡公園） 9月17日
- ・ 新年会・善光寺 2月19日

(3) 生産活動

- ・ 喫茶コーナー従事（13回）
- ・ 看板作り等（12回）

(4) 普及啓発に関する事業

- ・ リーフ通信（12回発行）
- ・ ギャラリー展示（8回）地域の方を中心に開催

(5) ボランティア活動

書道、創作活動、喫茶オレンジ・手しごとカフェ・ギターを弾いてみよう・ボードゲームを楽しもう等に協力。

6 当事者育成事業

体験発表、メンバー会、ひまわりの会、ピアカウンセリング、家族会、音読会等

VI-1 2024年度 相談支援事業 事業報告

絆の会相談室

長野市稲葉15-7 職員：相談支援専門員3名

1 総括

2024年度は長野市障害福祉ネットに積極的に参加し、新しい情報を収集し職員間で共有することで質の高い支援の維持、向上に努めた。

2 計画相談支援・地域相談支援事業

計画相談支援では、利用者の希望に沿った支援を行うため、計画相談と個別支援計画が連動できるように、事業所との連携を図った。個別支援計画の提供のない事業所には意識して働きかけを行った。主任相談支援専門員の連絡会にも参加し、法人内、法人外の相談支援専門員のバックアップに務めた。

地域相談支援のうち地域移行支援は、感染症の流行期は依頼が減ってしまったが、それ以外は毎月安定して新規を受けてきた。地域定着支援は、4名のみ利用のため、制度の周知をしていく必要性を感じた。

・計画相談	81.1件/月	実人数	233名	請求件数	986件（前年度 996件）
・地域移行相談	2.6件/月	実人数	11名	請求件数	34件（前年度 33件）
・地域定着相談	3.2件/月	実人数	4名	請求件数	38件（前年度 45件）

3 自立生活援助事業

法人外の相談支援専門員からの依頼も受け、終了後は関係機関に継続した支援を依頼した。本事業について関係機関へ周知を図ったが、受入体制が整わず受けられない依頼もあった。セルフイー平林から一人暮らしを始めた2名にも自立生活援助事業を活用し、安定した生活が送れるよう支援した。

・自立生活援助	3.6件/月	実人数	12名	請求件数	50件（前年度 81件）
---------	--------	-----	-----	------	--------------